

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防自動車に衝突した加害車両運転者を救護する際の人身危険
3. 体験した事例の中心的要素	消防車両に普通乗用車（加害車両）が衝突したため、運転者（加害車両）救護の目的で隊員2名が車両に近づいた。その際、運転手が逃走を図り急発進でUターンしたため、隊員2名が逃走車両にひかれそうになったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	事故発生後、警察からの情報で加害車両が盗難車であると判明した。交通事故が発生した場合、被害事故であっても負傷者救護を最優先と考え相手方の負傷状況を確認しようとするが、救護を拒み逃走する者もいると認識し行動しなければならない。逃走を図る運転者は、周囲の安全を確認しないため、救護しようとする隊員に気づかず二次災害を発生させる可能性が高い。交通事故の当事者は、事故処理に適切に応じるものと認識していたが、予想外の行動（現場からの逃走）をとる者もあった。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

.....

1. 発生日時	平成 19 年 5 月 3 日 午後 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：道路上
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故、
7. 事例体験時の活動	救急、帰署途中、 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：帰署途中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[28]年、現場経験年数[16]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [初めて]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[25]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[32]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長]、同様の活動 [初めて]、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢 33 歳、勤続 5 年、現場経験 5 年、階級 消防副士長、同様の活動：初めて、任務：隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	全員	警戒出動	
経過2	全員	現場活動終了・帰署開始	U ターン 開始 (誘導員配置)
経過3		交通事故発生	減速せずに消防車に衝突してきた
経過4	A、C	加害車両運転手の救護	隊員が観察のため車両に近づく
経過5	A、C	加害車両が逃走（後方に急発進しUターン）を開始したため、ひかれそうになる	
経過6		加害車両逃走	猛スピードで逃走
経過7	A	警察へ通報	
経過8	A	上司へ報告	
経過9	A	保険会社へ連絡	
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

- 事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

し. その他の理由があった。

はい：車両の前後に誘導員を配置し消防車両の方向転換を行っていたが、前方不注意で衝突してくる車両を避けることはできなかった。

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

事故が発生した場合、相手方が事故処理等に適切に応じないこともあると認識しておく。
負傷者の救護、観察等を実施するときであっても、安全管理を徹底する必要がある。
避けることが困難であったとはいえ、隊員を危険にさらすこととなった交通事故であり、また

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

事故現場見取り図

歩道

- 消 防 車
(被害車両) 
- 普通乗用車
(加害車両) 
- 誘導員 

歩道

